

脳神経内科に通院中（または過去に通院・入院されたことのある）の患者さん またはご家族の方へ

-臨床研究に関する情報および臨床研究に対するご協力のお願ひ-

現在、脳神経内科では、本学で保管している診療後の残余検体と診療情報等を使って、下記の研究課題を実施しています。

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、本学倫理委員会によって「学術研究目的」等の特段の理由が認められ、実施についての承認が得られています。この研究課題の詳細についてお知りになりたい方は、下欄の研究内容の問い合わせ担当者まで直接お問い合わせください。なお、この研究課題の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の検体・診療情報等を「この研究課題に対しては利用・提供して欲しくない」と思われた場合にも、下欄の研究内容の問い合わせ担当者までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

[研究課題名] 中枢神経炎症性脱髄性疾患および脳腫瘍における髄液バイオマーカーに関する研究

[研究機関] 東京女子医科大学病院 脳神経内科

[研究責任者] 北川 一夫（教授・講座主任）

[研究の方法]

●対象となる患者さん

多発性硬化症、視神経脊髄炎、脳腫瘍（神経膠腫、悪性リンパ腫）の患者さんで、平成29年6月7日から令和2年4月30日の間に髄液検査を受けた方。日常診療の検査で以前採取した髄液の残余を研究に使わせていただくことについて過去に同意を得ている患者さんを対象としています。

●利用している残余検体・診療情報等の項目

残余検体：髄液のうち残余があるもの

利用するカルテ情報

診断名、年齢、性別、身体所見、病歴、治療法、検査結果（血液検査、髄液検査、画像検査、電気生理学検査、頭部画像検査、病理検査）

●研究期間 倫理委員会承認後～2024年3月31日

[研究の目的]

多発性硬化症と視神経脊髄炎は自己免疫性機序の中枢神経炎症性脱髄性疾患です。典型例である場合、診断は比較的スムーズに行えますが、時に脳腫瘍との鑑別に時間を要する場合があります。脳腫瘍の場合にも、中枢神経炎症性脱髄性疾患との鑑別に時間を要することがしばしばあります。中枢神経炎症性脱髄性疾患と脳腫瘍の治療法は大きく異なるため、これらの鑑別は非常に重要です。本研究は、中枢神経炎症性脱髄性疾患と脳腫瘍において髄液を用い病態解明および診断精度を向上につなげ、診断や治療法選択に寄与することを目的としています。

[この研究での検体・診療情報等の取扱い]

本学倫理委員会の承認を受けた研究計画書に従い、お預かりした検体や診療情報等には匿名化処理を行い、ご協力者の方の氏名や住所などが特定できないよう安全管理措置を講じたうえで取り扱っています。

[研究責任者、および、研究内容の問い合わせ担当者]

研究責任者：東京女子医科大学 脳神経内科 教授・講座主任 北川一夫

研究内容の問い合わせ担当者：東京女子医科大学 脳神経内科 助教 池口亮太郎

電話：03-3353-8111（内線 28613）（応対可能時間：平日9時～16時）

ファックス：03-5269-7617 Eメール：ikeguchi.ryotaro@twmu.ac.jp